

辺野古守れ 全国で声

2万8000人 国会包囲

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設に反対する集会が二十一日、全国各地で開かれた。東京では、参加者が手をつないで国会の周りを囲み「新基地建設計絶対反対」「辺野古を守れ」と訴えた。

北中

東京の集会は市民団体が主催し、約二万八千人（主催者発表）が参加。国会周辺の歩道では、辺野古の美しい海をイメージした青いジャンパーや青い布を身に着けた人たちが「沖縄の民意に従え」と声を上げた。名護市から駆け付けた稲嶺進市長は「政府は『辺野古しかない』と強引に埋め立てを進めようとしているが、正義と道理はわれわれにある。民主主義や地方自治をないがしろにする

政権を許すことはできない」とあいさつした。安全保障関連法に反対する大学生らのグループ「SEALDs（シールズ）」のメンバーで、宜野湾市出身の国際基督教大四年元山仁士郎さん（三）は「七月には参院選もある。頑張っている」と呼び掛け、参加者とともに「戦争したがる議員は要らない」「野党は頑張れ」とコールを繰り返した。岡山市の集会には中国地方五県の約二百人が参加。

広島県福山市の主婦（三）は「政府はもっと沖縄の人たちや国民の声に耳を傾けて」と話した。沖縄から二千里以上離れた札幌市でも集会が開かれた。デモ行進では、プラカードを掲げながら「海を壊すな！」などと声を上げ、約二百人が雪の舞う札幌中心部を歩いた。名古屋と大阪市の集会にもそれぞれ約六百人が集まり、「沖縄だけでなく日本の問題」「一緒に闘っていく」と声が上がった。



国会前での辺野古新基地反対デモに参加し、あいさつする名護市の稲嶺進市長（中央）=21日、東京・永田町で

富山では350人氣勢



「辺野古新基地建設反対」などとシュプレヒコールをする参加者=21日、富山市奥田新町のボルファートとやまで

北信越ブロックの集会は富山市奥田新町のボルファートとやまであり、富山、石川、福井、長野、新潟の五県から集まった三百五十人が機運を高めた。五県の平和運動センターが主催し、沖縄県民の反対運動の記録DVDを観賞後、基地問題などを発信する「ゆいまーるとやま沖縄つなぐ会」（富山市）の代表小原悦子さんが講演した。小原さんは「沖縄本島の面積は富山市とほぼ同じ。その18%が米軍専用施設」

と解説。辺野古の予定地には太平洋戦争の沖縄戦当時住民収容所があり、今も遺骨が残っているとし、「軍隊がいるところに戦が来る。軍隊は住民を守らないのが沖縄戦の教訓だ」という多くの高齢者の意見を紹介した。聞き入った富山県立山町の男性会社員（三）は「民意が反対しているのに政府が強行的に進めていくのはどうなのか。運動を広めていくことに関わりたい」と話していた。（木許はるみ）